七月 夏の女流能

七月二日（土） 十三時始
正午開場
於 宝生能楽堂

13:00 養老

シテ 内田朝陽
ツレ 武田伊左
ワキ 大日方寛
ワキツレ 則久英志
〃 小林克都
間 河野佑紀
後見 辰巳満次郎 亀井雄二
大鼓 柿原孝則
小鼓 岡本はる奈
太鼓 大川典良
笛 栗林祐輔
地謡 坂口侑 関直美 土屋周子 衣斐愛 石黒実都 内田芳子 久貫弘能 柏山聡子

14:30 鶏聟

野村眞之介
野村万蔵
野村拳之介
石井康太

休憩十分

15:00 箙

シテ 葛野りさ
ワキ 野口琢弘
ワキツレ 野口能弘
〃 梅村昌功
間 野村万之丞
後見 小倉伸二郎 内藤飛能
大鼓 大倉栄太郎
小鼓 清水和音
笛 藤田貴寛
地謡 岩上昂平 藤井秋雅 川瀬隆士 金森隆晋 和久荘太郎 野月聡 大友順 當山淳司

休憩十分

16:25 吉野静

シテ 後藤裕子
ワキ 村瀬提
間 野村万之丞
〃 石井康太
後見 金森秀祥 澤田宏司
大鼓 亀井洋佑
小鼓 大山容子
笛 八反田智子
地謡 武田伊左 関直美 土屋周子 衣斐愛 久貫弘能 前田親子 影山道子 石黒実都

休憩十分

17:35 因幡堂

野村拳之介
河野佑紀

17:55 殺生石

シテ 広島栄里子
ワキ 村瀬慧
間 山下浩一郎
後見 宝生和英 田崎甫
大鼓 大倉慶乃助
小鼓 大村華由
太鼓 林雄一郎
笛 熊本俊太郎
地謡 石塚尚寿 朝倉大輔 金野泰大 辰巳大二郎 小林晋也 高橋亘 小倉健太郎 東川尚史

終了予定 十八時五十五分頃

演目の解説

能「養老」（ようろう）

美濃の国に薬の水が出たということを聞き、帝は調べて来るよう臣下に命じます。臣下は老人と水桶を持った若い男に出会い、謂れを聞くと、何気なく飲んだ滝の水が爽やかだったので、家まで運んで親に飲ませたところ、とても元気になったことから、老いを養う滝という名になったことを聞きます。親子は薬の水の出どころを教え、尚も古今のめでたい水の謂れを語り、臣下の前から去って行くと、妙なる音楽が聞こえて山神が現れ、爽快な舞を舞います。

能「箙」（えびら）

旅の僧が須磨の生田川に通りかかり、今を盛りと咲く梅の木を眺めていると、若い男に出会った。僧が梅の木の名前を尋ねると男は「箙の梅」という名で、自分が付けた名であると答えます。そして生田の森の合戦に、源氏方の梶原源太景季が箙に挿した紅梅を笠印として奮戦したことを詳しく語り、自分はその景季の幽霊であると明かして消え去ります。その夜の僧の夢に景季が若武者の姿で現れ、在りし日の戦さを再現し、供養を頼んで去って行きます。

能「吉野静」（よしのしずか）

吉野山に隠れていた義経一行は、衆徒が心変わりしたという報を受け、夜陰に乗じ落ちのびて行きます。残った宗徒が追手をかけるべきか相談している座敷に、都道者が紛れ込んで来ます。実はこの道者、義経の命令でただ一人残った佐藤忠信の変装した姿で、宗徒を翻意させようと色々と言葉を尽くします。宗徒が去って行くと、静御前が白拍子の姿で現れ、都道者に変装した忠信と示し合わせて山に残り、靜は義経の忠心と武勇を訴え、舞を舞い、衆徒は舞の面白さに時を忘れてしまうのでした。

能「殺生石」（せっしょうせき）

那須野を通りかかった玄翁という僧は、石の上を飛ぶ鳥がふらふらと落ちるのを見て不審に思っていると、「その石のそばに立ち寄るな」と言いながらに女が現れます。女はその石は「殺生石」と言って、帝の側にいて王朝を傾けようとした「玉藻の前」という狐の精が、安倍泰成に正体を見破られ、ここに飛んできて石となった謂れを語ります。女が石の陰に消え失せ、玄翁が石に向かって祈ると狐の本体が現れ、三浦、上総の両介に退治された有様を見せます。

チケット料金（税込）

全席自由席
一般 5,500円
学生 2,750円
（当日要学生証提示）

ご購入は、各能楽師
または
オンラインチケット
・宝生会事務局まで